

2月の保育 (〇ねらいと担任の思い)

<4歳児 りす組>

生活発表会に向けた取組が続いています。子どもたちはこれまでの遊びの中で、忍者や海賊、〇〇屋などのイメージをもって遊ぶことや、友達とのやりとりを繰り返し楽しんできました。劇では自分のやりたい役になって表現すること、創作したお話の世界観の中で友達と一緒に動くことを楽しんでいる姿が見られます。また、歌や合奏では、年長児と一緒に同じ歌を歌うこと、合奏の途中で楽器を持ち替えて2つの楽器で演奏することなど、少し難しいことに挑戦しています。これまでに運動会や展覧会で年長児と一緒に活動してきた経験が、りす組の子どもたちにとって大きな自信となっていることを実感する日々です。自信をもって自分なりに動いたり生活したりしている姿を十分に受け止め、教師も一緒に心身の成長を喜んだり、進級することへの意識や期待につなげたりしていきたいと思います。

寒さの厳しい日が続き、水や風の冷たさを感じるだけでなく、息の白さ、霜柱、ビオトープの池の水が凍るなどの冬の自然現象を目にする機会も多くなりました。「何でだろう?」「明日はどうなっているかな?」と、子どもたちの好奇心や期待を十分に受け止め、教師も一緒に気付きや発見を喜んだり、この時期ならではの自然現象の面白さを楽しんだりしていきます。また、寒い中でも健康で安全な生活を送っていくために、手洗いやうがいを丁寧にすること、ポケットに手を入れたり上着の前部分(ボタンやチャック)を開けたままにしたりせず自分で気を付けて過ごそうとすることなどを、繰り返し指導していきます。

2月の後半には、年長児からの誕生会の司会の引き継ぎや、3月に予定している年長児とのお別れ会の準備など、りす組の子どもたちが主体となって取り組む活動が増えていきます。年長児の修了が近付いていることを実感しながらも感謝の気持ちをもって関わっていけるよう、教師も仲間となって一緒に活動に向き合っていきたいと思います。

- 〇冬の寒さを感じながら体を動かして遊んだり、季節の行事を楽しんだりする。
- 〇自分の力を出しながら友達と一緒に活動する楽しさや、考えたり試したりしながら繰り返し遊ぶ面白さを感じる。
- 〇冬の生活に必要なことに気付き、丁寧に進めたり自分からしようとしたりする。
- 〇冬から春にかけての自然事象に興味・関心を持ち、自分から関わったり遊んだりすることを楽しむ。

<5歳児 はと組>

一年中で一番寒い時期を迎え、冬の自然事象を肌で感じる季節です。寒くても元気に戸外で学級のみんなと一緒にルールのある運動遊びなどで体を動かして遊び、体が温まる感覚や心地よさを味わわせたり、ビオトープに張る氷や強風、霜柱、陽だまりの暖かさなどの自然事象や球根の生長、ダイコンの収穫、ウメやスイセン、ナノハナなどの春の木々や草花と出会い、興味・関心をもって関わられるようにしたりしていきたいと思います。

自分の思いを相手に伝え、相手の思いも受け入れながら遊びや生活を進めようとしています。生活発表会という共通の課題に向けて、役割を分担したり、話し合ったり、時には困った場面に遭遇したりしながらも継続して作り上げていくことの楽しさや、一人一人が自分のもっている力を十分に発揮し、互いに認め合い、協力しながら生活発表会をやり遂げた満足感や充実感を大いに味わえるようにしていきます。

投げゴマや長縄跳びなど、個々の繰り返しの挑戦も続いています。取組の過程では「あと少しでできそう」「今よりももっとうまくなりたい」「(繰り返し取り組んで疲れたから)今はちょっと休もう」「どうやったらできるようになるか友達の様子を見よう」など、様々に抱いているようです。いずれも、何かを乗り越えていくにあたっては大事な気持ちです。自分なりのめあてに向けて前向きに取り組んでいこうとする姿勢を受け止め、励ましながら子供たちの試しを支えています。

今月は、幼稚園の修了が近付いていることを知り、年少組に誕生会の司会を引き継ぎや、本村小1年生との教室での交流、身近な生活の見直しなどをしながら、小学校への期待感をもてるようにしていきたいと思います。

- 〇友達と共通の目的に向かって協力して活動を進め、やり遂げた充実感を味わう。
- 〇生活に見通しをもち、友達と十分にに関わり、いろいろな表現活動を楽しむ。
- 〇寒さに負けず、戸外で全身を使っていろいろな運動遊びに取り組む。
- 〇冬の自然事象に関わり、発見したり試したり、考えたりする楽しさを味わう。